

この二十六日ご本部の月次祭を参拝し、詰所に戻ってきた途端、〇〇から緊急の電話を受けました。

「オイ、△△が出直したよ」

「エッ、本当か」

一瞬、私は自分の耳を疑ったほどです。

「〇〇、〇〇にも連絡済みだ」

「よし、判った。」

と私は言ったきり、もう後の言葉は全然出ませんでした。

思い返せば、大先輩の柏木庫治先生が三島公会堂を会場として“ぢば提灯会”を始められた頃から、一人々々前席の講話にお引き出し下さったのが機縁となつて何時しか柏木教室の優等生（？）五人組と噂されるようになりました。

でも事實は未熟な私達は講師仲間として互いに励まし合い、戒め合い、時には口角沫を飛ばして談じ合い、教祖をひたすら慕う余り、たゞたゞ憂教の至情に燃えて、御指命のまにまに全国の講演会場を昨日は北に、今日は南にと馳せ巡らせて頂きました。

あゝ、あれから早くも歲月は流れて三十有余年、あの日この時の貴兄のすらつとした勇姿が、今私の脛に浮かびます。

「まだまだ四五年位は頑張らねばならないぞ」

とおぢばの街角で会う度、肩を叩き合いながら誓っておりましたのに……

あゝ俄に△△の訃報に接しようとは……

でも遺されて四人で、今生は君の分まで引き受けて立ちます。どうか天翔り国翔つて心ゆくまで応援して下さい。

願わくば△△が一番先に旅立ったのだから、来世も又私達の陣頭に立って“一に勢い”の真実で突き進んでくれるよう……。では心安らかに、しばらく親神様のふところでお休み下さい。さよなら。